

# 大豆近況 VOL.156

団体会員  
一般会員 各位  
賛助会員  
協賛企業

関係部署にご回覧ください。

令和3年11月8日  
一般財団法人 全国豆腐連合会  
会長 東田 和久  
相談役 郷 和平

「大豆近況」をお届け致します。是非、ご活用下さい。

## ○北米産大豆

米国農務省が10月12日に発表した、2021/2022年度の米国大豆需給予想によりますと、単収増加により生産高が1億2,106万トンに上方修正されたのに加え、期初在庫の増加もあり総供給量が大幅に上方修正されました。国内搾油等の増加で総需要量も上方修正されましたが、供給量の増加が上回ったことで期末在庫は871万トン(在庫率7.3%)と大幅に上方修正されました。また、世界の大豆生産予想は、アルゼンチン、インド等の減少分を米国の増加分が補う格好で3億8,514万トンと僅かに上方修正されており、輸出や搾油の需要量が減少したことで、期末在庫は5.7%増の1億457万トンに上方修正されております。

なお、同省が10月25日に発表した、10月24日現在の米国主要生産州での収穫率は73%(前年82%、平年70%)と前年を下回るものの平年は上回って推移しております。10月に入っての天候が雨がちとなり、収穫作業が滞っている産地もあるとのことで、収穫開始が早かった分、収穫作業の停滞感が強い状況となっております。生産者が待ちきれずに水分過多の状態では収穫してしまうと品質問題や集荷拒否による数量減にも繋がるため、今後の晴天が望まれます。

一方、コンテナの不足や本船の遅れが著しく、改善の兆しすら見えない状況が続いており、10月末現在でも産地で出荷待ちの大豆が多数あると聞きます。慢性的な入港遅れは国内在庫のひっ迫にも繋がるため、今後の動静に注意が必要です。

10月のシカゴ相場は、期近11月限が\$12.55/ブッシェル付近から始まりました。9月末に発表された9月1日現在の全米在庫量が市場予想を大きく上回って上方修正されたことを受け、序盤は下落して始まっております。12日に前述の需給予想で供給量の大幅な上方修正と世界の期末在庫が1億トンの大台に乗せると下げに拍車がかかり、一時は約10ヵ月振りに12ドルを割り込む展開となりました。その後、中国による継続的な輸入成約や植物油相場の上昇、原油相場の上昇などを受けて買い直されたことにより、相場は反発し安値は長続きしませんでした。終盤には南米での好調な作付けや北米でのハーベストプレッシャー等の売り材料と米国产大豆の好調な輸出需要や高い

植物油価格と原油価格等の買い材料がきつ抗し、10月29日現在、期近1月限が\$12.46/ブッシェル付近で推移しております。

10月の円相場は、1ドル=111円ちょうど付近から始まりました。月初は米政府の債務上限問題を巡る透明感を受けた株価の下落や米国の長期金利の低下を受けてドル売りが優勢でありましたが、米政府の債務上限を12月初めまで引上げることで議会在合意したことによるリスク後退と米国長期金利の上昇、資源高によるインフレ懸念、米国主要企業の予想を上回る決算等による米株式市場の上昇等、ドル買い円売りの材料が目白押しとなったことで急激に円安が進行し、僅か2週間の内に5円弱もの円安となり、一時4年振りに114.70円付近まで円が下落しました。その後は心理的な節目である115円を上抜けなかったことや急激な円安に対する利益確定のドル売りも入り、113円台前半まで戻す展開となりました。月末では28日に開かれた日銀の金融政策決定会合で大規模な金融緩和の維持が決定され、黒田総裁からも円安牽制の発言も無かったことから相場の反応は薄く、10月29日現在、1ドル=113.60円付近で推移しております。

#### ○国産大豆

令和3年産国産大豆の生育状況として、北海道においては平年よりも早いペースで収穫作業が進んでおります。6～7月の干ばつの影響により産地によって作柄のバラツキが大きく、若干小粒化傾向にあるようですが、北海道全体としては当初の計画通りの集荷が見込まれております。その他、東北・北陸・関東ともに概ね順調で計画通りの集荷を見込んでおり、東海地方～西日本についても大きな下振れの心配は無さそうです。8月に豪雨に見舞われた九州地方ですが、草丈が低くサヤ着きも少ない傾向ながら、その後の回復もあって当初心配された程の不作ではないと期待されます。ただし、9月下旬以降は高温乾燥傾向にあり、子実の肥大が抑制されている懸念があり、今後のさらなる回復に期待したいところです。

以上